

目 次

第1 区域の概況	1
(附表) 農業粗生産額	1
第2 指定野菜の生産及び出荷の近代化に関する基本的構想	1
第3 指定野菜の生産に関する事項	2
1. 作付面積及び生産数量	2
2. 収穫面積規模別農家数	3
3. 耕種状況等	4
(1) 主要輪作体系及び耕種時期	4
(2) 栽培技術等の改善	4
(3) 農業用廃プラスチックの処理方針	5
4. 労働生産性の向上と労働力確保	6
(1) 10a当たり総労働時間	6
(2) 年齢別農業従事者数	6
第4 指定野菜の出荷に関する事項	7
1. 流通先別出荷数量	7
2. 出荷機関別出荷数量	8
3. 流通先別月別出荷数量	9
4. 出荷規格	9
第5 指定野菜の近代化に関する事業計画	10
1. 現状	10
2. 計画	11
(参考資料)	
1. 資金計画	
2. 添付図	

2. 収穫面積規模別農家数

(単位:戸、%)

市町村名	項目 年次	収穫 農家数	収穫面積規模別												
			5a 未滿	5a~ 10a	10a~ 20a	20a~ 30a	30a~ 50a	50a~ 1ha	1ha~ 1.5ha	1.5ha~ 2ha	2ha~ 5ha	5ha~ 6ha	6ha~ 8ha	8ha~ 10ha	10ha 以上
鳥取市	現在(29年) A	164戸	21	52	59	13	10	8	1	0	0	0	0	0	0
	目標(34年) B	189戸	21	55	65	25	15	8	0	0	0	0	0	0	0
	対比B/A	115%	100%	106%	110%	192%	150%	100%	0%	-	-	-	-	-	-
岩美町	現在(29年) A	23戸	2	5	9	6	0	1	0	0	0	0	0	0	0
	目標(34年) B	30戸	2	5	12	10	0	1	0	0	0	0	0	0	0
	対比B/A	130%	100%	100%	133%	167%	-	100%	-	-	-	-	-	-	-
若桜町	現在(29年) A	5戸	0	2	2	0	0	1	0	0	0	0	0	0	0
	目標(34年) B	7戸	0	2	2	2	0	1	0	0	0	0	0	0	0
	対比B/A	140%	-	100%	100%	0%	-	100%	-	-	-	-	-	-	-
智頭町	現在(29年) A	12戸	3	2	3	2	2	0	0	0	0	0	0	0	0
	目標(34年) B	16戸	2	2	4	6	2	0	0	0	0	0	0	0	0
	対比B/A	133%	67%	100%	133%	300%	100%	-	-	-	-	-	-	-	-
八頭町	現在(29年) A	43戸	4	7	13	10	6	1	1	0	1	0	0	0	0
	目標(34年) B	58戸	2	7	20	15	10	2	1	0	1	0	0	0	0
	対比B/A	135%	50%	100%	154%	150%	167%	200%	100%	-	100%	-	-	-	-
計	現在(29年) A	247戸	30	68	86	31	18	11	2	0	1	0	0	0	0
	目標(34年) B	300戸	27	71	103	58	27	12	1	0	1	0	0	0	0
	対比B/A	121%	90%	104%	120%	187%	150%	109%	50%	-	100%	-	-	-	-
	比率	現在	100%	12%	28%	35%	13%	7%	4%	0.8%	0%	0.4%	0%	0%	0%
	目標	100%	9%	24%	34%	19%	9%	4%	0.3%	0%	0.3%	0%	0%	0%	0%

3. 耕種状況等

(1) 主要輪作体系及び耕種時期

年次	タイプ	耕種時期																			比率				
		1月	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12	1	2	3	4	5	6	7		8	9	10	～
現在 (29年)	春穫り					△	△	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	□	□	% 10
	夏穫り							(越冬)				○	○	△	△	—	—	—	—	—	—	—	□	□	7
	秋冬穫り	□	—																						83
目標 (34年)	春穫り					△	△	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	□	□	% 12
	夏穫り							(越冬)				○	○	△	△	—	—	—	—	—	—	—	□	□	10
	秋冬穫り	□	—																						78

(注) 耕種時期は記入例により記入する。ただし、○-○(は種期)、△-△(定植期)、□-□(収穫期)、×-×(収とし、指定野菜名は括弧書きとする。

(2) 栽培技術等の改善

10月から2月の間に出荷される秋冬ねぎの作型が主流であるが、産地規模拡大を図るためには労力分散が課題であり、作型分化をせざるをえず、前進化技術の確立が必要である。

ハウス育苗により夏ねぎセル大苗の育苗技術普及により、7月下旬からの連続出荷体系が確立され経営基盤が固められた。さらに、中山間地で可能な作型を導入推進し、出荷時期の労力分散により長期安定出荷を目指す。

適切な堆肥の投入と深耕ロータリー、トレンチャー等を利用した土づくりによる地力の維持増強を行い、生産安向上を図る。

(3) 農業用廃プラスチックの処理方針

ア 農業用廃プラスチック処理の現状と課題

被覆資材として使用した塩化ビニールフィルム、ポリエチレンフィルム、プラスチックフィルム等は、次として再利用するものと、個人で処分するもの、業者により処理するものと大別される。

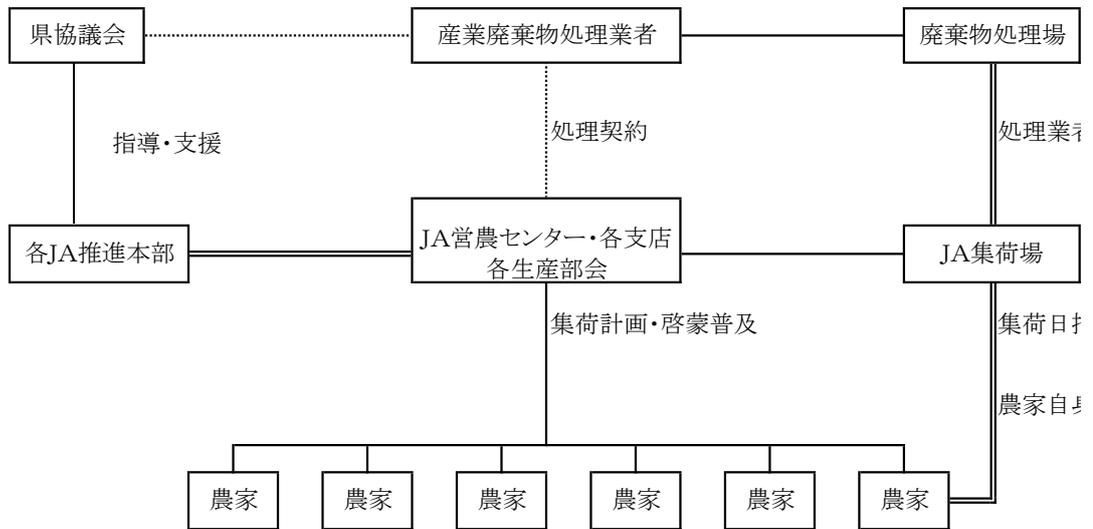
現在、各JAに農業用廃プラスチック適正処理推進本部を設置し、全量処理業者による適正処理を推

イ 今後の処理方針

廃プラスチックは、産業廃棄物として農業者が責任を持って処理すべきものとして位置付けられてお

関、農業団体、製造、流通業者が一体となって回収体制を確立し、適正処理を進める。
今後、各JA推進本部を中心とした組織的取組とともに生産部会を通じて農業者への啓発を図り、適

【農業用廃プラスチックの処理体制図】



指定野菜 の主要品 種名
春扇、龍ひかり
夏扇パワー、 光の剣
夏扇4号 関羽一本太
春扇、龍ひかり
夏扇パワー、 光の剣
夏扇4号 関羽一本太 (穫最盛期)

必要であり、
の安定を
進
み定と品質

年度マルチ
に進してい

り、行政機
正処理を実

者回収

旨定

身で搬入

4. 労働生産性の向上と労働力確保

(1) 10a当たり総労働時間

(単位:時間、%)

項目 年次	10a当たり総労働時間	10a当たり総労働時間の内訳								
		育苗	耕起 整地 基肥	定植 (は種)	中耕 ・ 除草	追肥	栽培 管理	防除	収穫 ・ 調製	その他
現在(29年)A	625.5	-	11	17	32	15	24	37	486.5	3
目標(34年)B	539.0	-	11	17	32	15	24	37	400.0	3
対比B/A	86.2		100.0	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0	82.2	100.0

(2) 年齢別農業従事者数

(単位:人、%)

市町村名	項目 年次	合計						男					女						
		計	16 歳 以下	17 歳 以上	30 歳 以下	31 歳 以上	65 歳 以上	計	16 歳 以下	17 歳 以上	30 歳 以下	31 歳 以上	65 歳 以上	計	16 歳 以下	17 歳 以上	30 歳 以下	31 歳 以上	65 歳 以上
			29 歳	49 歳	59 歳	64 歳	65 歳 以上	29 歳	49 歳	59 歳	64 歳	65 歳 以上	29 歳	49 歳	59 歳	64 歳	65 歳 以上		
鳥取市	現在(29年)A	164	4	28	16	34	82	159	4	27	14	34	80	5		1	2		2
	目標(34年)B	189	6	22	24	40	97	184	6	21	22	40	95	5		1	2		2
	対比B/A	115%	150%	79%	150%	118%	118%	116%	150%	78%	157%	118%	119%	100%	-	100%	100%	-	100%
岩美町	現在(29年)A	23	1	1	3	7	11	23	1	1	3	7	11	0					
	目標(34年)B	30	1	2	3	9	15	30	1	2	3	9	15	0					
	対比B/A	130%	100%	200%	100%	129%	136%	130%	100%	200%	100%	129%	136%	-	-	-	-	-	-
若桜町	現在(29年)A	5	0	1	1	0	3	5		1	1	0	3	0					
	目標(34年)B	7	0	1	1	2	3	7		1	1	2	3	0					
	対比B/A	140%	-	100%	100%	-	100%	140%	-	100%	100%	-	100%	-	-	-	-	-	-
智頭町	現在(29年)A	12	1	2	3	2	4	11	1	2	3	1	4	1					1
	目標(34年)B	16	1	2	3	3	7	15	1	2	3	2	7	1					1
	対比B/A	133%	100%	100%	100%	150%	175%	136%	100%	100%	100%	200%	175%	100%	-	-	-	-	100%
八頭町	現在(29年)A	43	0	7	5	10	21	41	0	6	5	10	20	2		1			1
	目標(34年)B	58	0	9	6	15	28	56	0	8	6	15	27	2		1			1
	対比B/A	135%	-	129%	120%	150%	133%	137%	-	133%	120%	150%	135%	100%	-	100%	-	-	100%
計	現在(29年)A	247	6	39	28	53	121	239	6	37	26	52	118	8	0	2	2	1	3
	目標(34年)B	300	8	36	37	69	150	292	8	34	35	68	147	8	0	2	2	1	3
	対比B/A	121%	133%	92%	132%	130%	124%	122%	133%	92%	135%	131%	125%	100%	-	100%	100%	100%	100%
	比率		現在	100	2	16	11	21	49	97	2	15	11	21	48	3	0	1	1
	目標	100	3	12	12	23	50	97	3	11	12	23	49	3	0	1	1	0	1

(3)労働力確保、生産省力化のための具体的手段の現状と課題
調整時間の短縮のため皮むき機・根葉切機の導入を進めた。

第4 指定野菜の出荷に関する事項

当該産地の秋冬ねぎは全量生食用で、主に近畿、中国、四国地域の市場に出荷されている。平成29年度現在の出荷量は539tであるが、目標年の34年には、670tを出荷する計画で栽培技術向上により単収を増やしていく。

1. 流通先別出荷数量

市町村名	流通先 年次	生食用		加工用		合計
		卸売市場向け	卸売市場以外向け	卸売市場向け	卸売市場以外向け	
鳥取市	5年前(24年)	233	0	0	0	233
	現在(29年)	321	0	0	0	321
	目標(34年)	398	0	0	0	398
岩美町	5年前(24年)	56	0	0	0	56
	現在(29年)	30	0	0	0	30
	目標(34年)	40	0	0	0	40
若桜町	5年前(24年)	13	0	0	0	13
	現在(29年)	16	0	0	0	16
	目標(34年)	20	0	0	0	20
智頭町	5年前(24年)	21	0	0	0	21
	現在(29年)	18	0	0	0	18
	目標(34年)	20	0	0	0	20
八頭町	5年前(24年)	185	0	0	0	185
	現在(29年)	154	0	0	0	154
	目標(34年)	190	0	0	0	190
計	5年前(24年)	508	0	0	0	508
	現在(29年)	539	0	0	0	539
	目標(34年)	668	0	0	0	668

ある。

単位:トン、%)

主な出荷先名
近畿・中国・四国
//
//
近畿・中国・四国
//
//
近畿・中国・四国
//
//
近畿・中国・四国
//
//
近畿・中国・四国
//
//

2. 出荷機関別出荷数量

(単位:トン、%)

市町村名	項目	農協連合会	農協	任意組合	商協	商人	大規模生産者 ()	その他	計	共販等率
	年次									
鳥取市	5年前(24年)	233							233	100
	現在(29年)	321							321	100
	目標(34年)	398							398	100
岩美町	5年前(24年)	56							56	100
	現在(29年)	30							30	100
	目標(34年)	40							40	100
若桜町	5年前(24年)	13							13	100
	現在(29年)	16							16	100
	目標(34年)	20							20	100
智頭町	5年前(24年)	21							21	100
	現在(29年)	18							18	100
	目標(34年)	20							20	100
八頭町	5年前(24年)	185							185	100
	現在(29年)	154							154	100
	目標(34年)	190							190	100
計	5年前(24年)	508	0	0	0	0	0	0	508	100
	現在(29年)	539	0	0	0	0	0	0	539	100
	目標(34年)	668	0	0	0	0	0	0	668	100

3. 流通先別月別出荷数量

(単位:トン)

区分	ブロック	年次	種別の期間												計	種別の期間計 (○印の月の計)	
			1月	2月	3月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月			
生食用	卸売市場向け	近畿	現在(29年)	37	17	15	2	1	0	0	0	0	1	19	48	140	137
			目標(34年)	45	21	18	3	1	0	0	0	0	2	24	60	174	170
		中国	現在(29年)	30	16	11	6	2	0	1	4	4	7	19	38	138	121
			目標(34年)	36	20	14	8	3	0	1	5	5	8	24	47	171	149
		四国	現在(29年)	54	26	14	9	2	0	3	8	9	16	45	75	261	230
			目標(34年)	67	32	17	11	2	1	4	10	11	20	55	93	323	284
	卸売市場以外向け	現在(29年)	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	
		目標(34年)	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	
加工用	卸売市場向け	近畿	現在(29年)	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	
			目標(34年)	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	
		中国	現在(29年)	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	
			目標(34年)	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	
		四国	現在(29年)	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	
			目標(34年)	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	
	卸売市場以外向け	現在(29年)	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0		
		目標(34年)	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0		
計	現在(29年)	121	59	40	17	5	0	4	12	13	24	83	161	539			
	目標(34年)	148	73	49	22	6	1	5	15	16	30	103	200	668			

4 出荷規格

出荷規格は、全国農業協同組合連合会鳥取県本部が作成した規格を使用している。今後必要に応じて規格の変更、簡素化を検討していく。

しろねぎ (秋冬) (H16.10.21)

規格	標識	軟白部の長さ	根元10cm上部直径	小束本数	葉切全長	摘 要
2L	緑	30cm	1.8cm以上 ~ 2.5cm未満	2本	58cm	◎量目...正味 3kg 込150g (棒ねぎ基準) 6kg 込300g ◎小束...10束 ・小束は「太さ」を揃える。 ・小束は結束テープで結束する。 ◎調整 ・ふきとりは充分に行なう。 ・根は完全に切る。 ・箱詰は出荷当日の朝にする。 ・病虫害葉は除く。 ・水切りは充分に行なう。 ◎規格品 葉...3枚以上 2L, L, L4 2枚以上 AL, M, S, 3L ◎箱詰...ALは2, 3, 4本別々に箱詰めする。 ◎規格外品 優 (病虫害葉の若干あるもの 3cm以上の曲り)
L	紫	以上	1.2cm以上 ~ 1.8cm未満	3本		
L4			4本			
AL	青	25cm	1.2cm以上 ~ 2.5cm未満	2~ 4本		
M			5~ 6本			
S	白	以上	0.8cm以上 ~ 1.2cm未満	7~ 10本		
3L			バラ			
優	クラフト(透き色)	0.8cm以上	—	14本		

第5 指定野菜の近代化に関する事業計画

本産地の秋冬ねぎについては、機械化は徐々に進んできてはいるものの、収穫調整を中心とする作業にかなり労力を要している。

目標年に向かって、面積拡大と生産安定のためには機械化が必要であり、定植機及び一般管理作業機、調整作業機等の一層の普及に努め、省力化を進めながら一戸当たりの規模拡大を図るとともに、栽培農家を増やすこととしている。

また、品質の向上を図るため予冷施設等集出荷施設の充実、活用を推進し、品質面、出荷量で市場評価を高めるよう努力する。

1. 現 状

導入事業名	市町村名	事業実施主体名	受益範囲		事業の内容	工種又は施設区分	事業量	導入年度	備考
			戸数	面積又は処理量					
がんばる地域プラン	鳥取市 岩美町 八頭町 智頭町 若桜町	JA鳥取いなば	戸 250	ha(t) 50	出荷調製	皮むき機	23台	H26~30	
						コンプレッサ			
					根葉切機	12台			
					育苗				
					剪葉機	1台	H26		
					セル苗移植機	2台	H26.H28		
					土揚げ機	2台	H26.H28		
					育苗ハウス	3棟	H26		

(参考資料)

1. 資金計画

助成区分	事業種目	事業実施主体(見込)	事業の内容	工種又は施設区分	事業量	単価	所要資金額	所要資金の調達方法(千円)						導入年度	備考	
								補助金			近代化資金	公庫資金	その他			自己負担
								国	都道府県	市町村						
							千円									
補助事業	計															
	計															
農業改良資金	計															
融資事業等	計															

2. 添付図

野菜指定産地の区域全体を表わす位置図1枚を添付する。

この位置図は、縮尺を明記した既存の地図を用いて次により作成する。

- (1) 農業振興地域及び農用地区域を図示する。
- (2) 指定野菜の区域を黒線で囲み、本計画樹立年の作付面積を記入する。
- (3) 目標年次の指定野菜の作付区域を緑線で囲み、目標年次の作付面積を記入する。
- (4) 役場、農協等の公共施設並びに指定野菜の生産及び出荷に関する既存の農機具格納庫、集出荷施設等の位置を黒丸を付して記入する。
(その施設等が補助事業等で導入された場合は、その事業名等を付記する。)
- (5) 指定野菜の作付区域(現在及び目標)に関する土地基盤整備の実施済地区を青色で図示する。
(農道、かんがい施設等については、路線を青線で図示し、その受益範囲を青色の斜線で示す。)
- (6) 第5の2の補助事業の欄の土地基盤整備については、計画区域を赤色で図示(農道、かんがい施設等については、路線を赤線で図示し、その受益範囲を赤色の斜線で示す。)し、生産管理機械施設、集出荷貯蔵施設及び産地管理施設については、当該施設等の設置又は保管計画場所の名称を付して赤丸で図示する。
- (7) 第5の2の農業改良資金及びその他補助、融資事業の欄の生産管理機械施設等については、(6)と同様に黄色で図示する。